



日本防災士会
北海道支部
**北海道
防災士会
会報**
2013.12

10/23 防災士会第2回研修会 道LPガス協会にて（札幌市白石区）

平成25年度 第2回 道防災士会研修会開催

10月23日LPガスについてよく知ってもらおうと平成25年度2回目の道防災士会会員向け研修会が開催されました。札幌などの都市部では都市ガスや電気が多く使われているものの、全道でみると主たる調理熱源として利用されているのはLPガス（約60%）となっています。研修会では道LPガス協会の石原昭一講師（防災アドバイザー）からLPガスの特性、災害時におけるメリット、意外と知られていないマイコンメーターの機能などについてレクチャーが行われました。意外と知られていないLPガスのメーターについて、マイコンメーターは震度5以上で自動的に供給を遮断する装置が内蔵され、またガスの流れ方や圧力変化があった場合でもガスを止める機能が付加されているとのこと。つまり地震災害において二次被害が起こさないための工夫が凝縮しており、その背景にはこれ

までの震災での教訓などが活かしているということです。実例として災害後多くの火災が起きた阪神淡路大震災（平成7年）が紹介され、地震発生直後から10日間で起きた火災は175件。その出火原因のうち、電気は44件（主に復電火災と言われている）、都市ガス11件、そしてLPガスに至っては0件（石油化学新聞社刊「LPガスで大災害に備えよう」2005年版）つまり発生原因とはならなかったという結果です。これはマイコンメーターなどの進化と普及によるガス遮断が効果を発揮したということ。LPガスは使い方さえ誤らなければ、移動や管理が楽なエネルギーで、災害に強い性質がいま注目されている理由です。なお東日本大震災では、東北地方における主な調理熱源がLPガスだったことが幸いし、津波による直接的な被災地を除くと、暖かい食べ物が比較的作りやすい点で救われた家が多かったと聞きます。さらに3月11日の発災

2013年度 今年度(中間)の活動記録集

から各ライフラインの全面復旧に至った日を見ると、LPガス4月21日、都市ガス5月3日、電力6月18日（内閣府資料）とLPガスが比較的早期に復旧したエネルギーだとわかります。そうしたデータを踏まえ、石原講師は今後災害への備えとしてLPガスも含めてエネルギーの「分散」による災害対策を進めるべきと訴えました。エネルギーの分散という点で紹介されたのは札幌市内の小中学校（306校）における化石燃料由来のエネルギーのシェアについてです。都市ガス36%、灯油32%、重油26%、LPガス3%強。電気を利用する学校を除き、単一熱源の学校が主流で、複数のエネルギーに分散している施設は少ない現状です。文科省では3.11以降、学校を避難所として機能させるために調理室の器具にLPガスが使えるようガス接続口の整備などを行っており、防災の観点からもLPガスの利活用について見直しすべき時が来て

いるようです。LP ガス協会では、災害に備え全道の販売事業者で構成する北海道エルピーガス災害対策協議会を組織しており、災害発生時には国や道の災害対策本部などと連携して、避難所や災害拠点を中心に LP ガスおよび器具を供給する体制を敷いています。また災害備蓄用の「バルク」と呼ばれる大型のガス供給タンクが、津波被害が想定される太平洋岸の都市を重点的に札幌・小樽・千歳・旭川・函館・室蘭・苫小牧・釧路・帯広など 16 の都市で配備しています。また LP ガスによる大型発電車もあるなど、非常時の備えについて紹介されました。受講した防災士会員からも、初めて知る情報に大変価値のある研修会だったとの話が出ていました。(下写真 バルク等の視察)



帯広で防災学習会



9月18日 帯広で、防災学習会「地震に関する災害発生時の行動について」が開催されました。この学習会はコープさっぽろ帯広地区委員会が主催したもので、道防災士会の専門員(防災マスター)ら

が教壇に立ち、災害時の行動などについて講演しました。日本防災士会は平成 24 年末に日本生活協同組合と防災訓練指導における協定を結んでおり、今後もこうした研修で防災士会会員や防災マスターが活躍する場が増えるものとみられます。道には知事認定の防災マスター制度があります。講習を受けることで認定を受けることができるのですが、道や市町村が主催する防災関連行事で活躍の場が広がることから、道防災士会では会員の皆様へも積極的に防災マスターの認定を受けるよう勧めています。

小学校を中心とした地域ぐるみの防災訓練を指導



9月27日 札幌市北区の新琴似南小学校で防災訓練が行われ、道防災士会釜谷代表らが訓練指導しました。この訓練は震度5強の地震が起きた想定で行われ、児童400名、教員ら20名、スクールガード5名、保護者400名が参加しました。訓練開始とともに、各担任は教室に残り、他の職員は防災無線やテレビラジオなどから外部の情報を集めます。内外の被災状況が確認できるとすぐに校内放送で情報提供が流れます。



担任から児童へ、避難時の持ち物は「一番大切な物ひとつだけ」という言葉がかけられたのち、安全確保された避難路を児童は足早に誘導されました。

この訓練では実際の被災を想定し、保護者による児童の引き取りや、スクールガードによる地域町内会の通学路の安全管理も併せて行われており、地域ぐるみの学校防災訓練となりました。このような地域と連携した小学校の訓練は札幌市内の他校において例を見ないことから、関係者は、とても注目を集める訓練となると話しています。札幌を中心に道内の小中学校では、災害時における避難・対応について、大まかなルールや資材はあるものの、より現実に即した訓練、整備が進んでいないのが現状であり、特に地域、町内会との連携についてはこれからの大きな課題となっています。そうした中でこの新琴似南小学校の訓練は色々な意味で価値のあるものとなりました。

防災・減災意識向上イベント「もしも北海道」に参加



9月29日札幌市中心部の札幌駅地下歩行空間で行われた防災・減災啓蒙イベント「もしも北海道」に、道防災士会は協力参加しました。このイベントは防災・減災について市民の意識向上を目指そうと毎年開催されているもので、警察、消防をはじめ、多くの行政や団体が参加しています。

主催者からの要請で道防災士会は昨年に続き2度目の参加を決

め、会員 5 名が市民の対応に追われました。会場では各団体の出展の脇で道防災士会の活動についての紹介を行い、防災関連の相談、東日本大震災を中心とした災害の写真・DVD の上映など様々な形で防災情報の提供をしました。結果、多くの市民に足を止めてもらい理解をしていただけました。



南区でマンション住民向けの防災訓練開かれる



9月29日札幌市南区藻岩地区のマンションで、住民を対象にした防災訓練が開かれました。訓練は災害時の助け合い活動についての課題を見つけ、日常生活の参考とすることを目的に藻岩グリーンアヴェニュー壱番街の町内会が実施したものです。

住民約 70 名が参加したこの訓練では、D I G (災害図上訓練) や

ベランダの緊急避難梯子を使った本格的な訓練を実施。それらの実践を通し、自治組織の在り方を再確認しました。この訓練では札幌市南消防や民間企業のフジテックサービス、そして道防災士会会員を講師に体験講習などが行われ、住民にとって価値ある一日となりました。

北区でお年寄りに防火・防災の学習会



10月28日札幌市北区で地元老人クラブ主催の防火・防災学習会が開かれ、道防災士会から会員が講師として教壇に立ちました。この学習会は、高齢者ならではの火災や防災について意識向上を目指して行われたもので「北区篠路むつみ会」の会員 40 名が参加しました。

冬を控え使う機会が増える暖房の火気について、その注意点や危険性を講師から説明されたほか、過去、道内で起きた火災原因などが紹介され、些細と思われる不注意が予想外の失火につながるなど、参加者は深く聞き入っていました。学習会の後半では東日本大震災後の被災地の様子が上映され、地震や自然災害が起きた時に、どのように自分自身の身の安全を守り、行動したら良いのかがレクチャーされました。高齢者ならではの対応について重点が置かれた内容に、受講した方は日常意識していなかった多くの事柄に理解を深めていま

した。

北海道シェイクアウト2013に登録参加しました



10月29日午前9時、昨年につき2回目となる北海道シェイクアウトが実施され、道防災士会も団体として参加の登録をし、会員それぞれが訓練を実施しました。

シェイクアウトとは、2008年に米国カリフォルニアで始まった訓練で、地震を想定して参加者が一斉に行動するという新しい形の訓練です。

参加者はインターネットなどを通じて防災についての知識を深め、同じ日時にそれぞれの場所で一斉に安全行動を行うというもので、2013年の今年には道内の行政、民間等、あわせて過去最高の975件143,390人(公式発表)が登録参加して実施されました。

ことしのシミュレーションは北海道太平洋沖を震源とする大規模な地震が発生し、北海道沿岸域に大津波警報等が発令されたとの想定で実施され、すでに報道でご存知の方もいるかもしれませんが、太平洋沿岸部の小学校などでは、実際に高台などへの非難など本番さながらの訓練が実施されています。

道防災士会の会員も、事前登録を行い、各自訓練を実施しました。来年も同時期に行われるだろうこの北海道シェイクアウト。ことし参加されなかった会員の皆様そして会員でない皆様も、ぜひ次回にご参加ください。

防災おばあちゃんの特別研

修会が開かれる

11月22日 札幌市中央区の桑園地区ふれあいセンターで「防災おばあちゃん」の防災講習会が開催されました。



この講習会は防災イベントなどでパートナーシップを組んでいる「もしも北海道」からの呼びかけに応え、急遽開催したものです。その急な呼びかけに対応するため札幌近郊から参加者を募る形になりましたが、道防災士会会員6名が駆け付け、講義に耳を傾けました。



講師の南部美智代さんは、三重県鈴鹿市の72歳。「災害の経験は語り継がれるからこそ、いかされるもの」をポリシーとして、自ら実践している方です。南部さんはNPO法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿の理事長として、昭和34年の伊勢湾台風をはじめ東日本大震災など、さまざまな災害現場での経験をもとに防災教育を全国展開し、平成22年度防災担当大臣賞を受賞されています。

この講習では高層マンションならではの防災知識や高齢者の対応、都市型防災についての話が展開されました。中でも地震発生後に起きるマンション火災と居住者がすべき行動、そのほか数々生じる問題点について、参加者は実用的な防

災知識の数々に満足の表情を浮かべていました。

防災士会本部理事会にオブザーバー出席しました

日本防災士会理事会に道防災士会もオブザーバー参加しました。ことしの理事会の議題は防災啓蒙活動について、防災教育について、来年10月に迎える防災士会設立10周年イベントについてなどでした。理事会を通じ、各支部との情報交換も行ってきました。

道防災士会の活動は、日本防災士会のホームページからもご覧いただけます。

道防災士会の活動内容は、一部ですが日本防災士会のホームページに掲載しています。「どこにあるのかわからない」という声が多く聞かれますのでご案内します。トップページからの流れを記しますが直接日本防災士会ブログのアドレスを入力するなどしてご覧いただけます。

①日本防災士会トップページ

<http://www.bousaisikai.jp/>

「支部の活動」をクリック



②「支部の活動」の説明文の上から3行目あたりに「ブログ」という文字があるので、そこをクリック



③日本防災士会 支部・会員の

活動ブログページ

<http://bousaisikai.blog.fc2.com/>

「北海道支部」をクリック



気兼ねなくお尋ねください。新規会員になりたい方もお問い合わせください。

道防災士会への各種リクエストございましたら、どうぞ事務局までご一報ください。防災士会の会員ではないが活動に関心のある方でも構いません。

新たに北海道防災士会の会員になりたい、関心があるという方がいらっしゃいましたら、入会資格は防災士の資格を持っているという方になりますが、どうぞ自薦他薦問いませんのでご連絡ください。入会を迷っていて、「活動内容をもっと知りたい」ということでしたら、事務局にお尋ね頂きたいと思います。皆さまからのFAX・メールお待ちしております。

北海道防災士会事務局

連絡先 001-0904

札幌市北区新琴似4-6-5-3

北海道防災士会事務局

ファックス 011-762-3779

Eメール

mail@hokkaido-bousaishikai.com

